

2010年3月期 中間決算 事業報告会資料  
2009年11月27日

戸田工業株式会社  
戸田工業グループ

# 目次

## □ 2010年3月期 中間決算 事業の業績(連結)

2010年3月期中間決算 連結業績	4
業績の特徴	5
セグメント別売上高	6
2010年3月期中間決算 貸借対照表科目	7
貸借対照表科目の特徴	8
主な連結子会社の状況	9
設備投資・研究開発・減価償却	10
中期計画との比較(連結)	11
計画との差異の原因	12

## □ 2010年3月期(2009年度) 事業計画

中期経営計画における重要課題	14
2010年3月期 連結事業見通し	15
中期経営計画との比較(連結)	16
今年度の重要課題	17
機能性顔料事業	18
電子素材事業(1)	19
電子素材事業(2)	20
エンジニアリング事業	21

# 2010年3月期 中間決算 事業の業績（連結）

---

# 2010年3月期中間決算 連結業績

(単位：百万円)

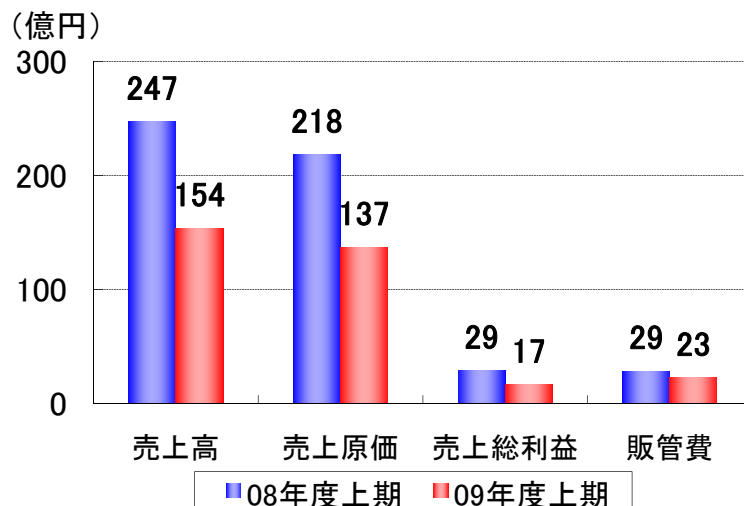
損益	09年3月期 上期	10年3月期 上期	前年同期比
売上高	24,717	15,362	62%
売上原価	21,828	13,708	63%
売上総利益	2,889	1,653	57%
販管費	2,866	2,260	79%
営業利益	23	△ 607	-
経常利益	△ 337	△ 892	-
純利益	△ 1,005	△ 912	-
1株当たり 純利益 (円)	△ 22.30	△ 20.26	-

# 業績の特徴

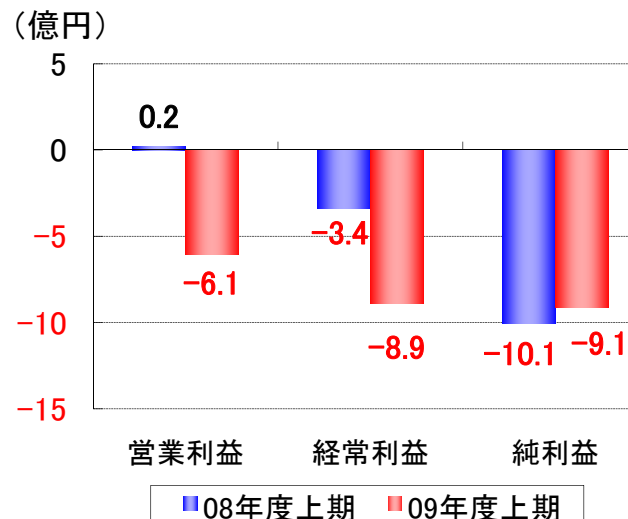
## 特徴

1. 売上高は、前年同期比 $\Delta 38\%$ と大幅減収となりました。減収の主な内訳としては、米国発の金融恐慌の影響が甚大であった事による全体的な稼働率の低迷によるもので2割程度の減収、電池材料のメタル価格相場下落によるもので2割程度の減収となっています。分野別に見ると、フェライト材料、顔料等の事業分野において、前年同期並みの販売への戻りが見られました。
2. 収益率を改善するために、要員の見直しにも及ぶ徹底したコストの削減に取り組みましたが、並行して発生した稼働率の低下や原燃料価格の高止まり、収益率の高い製品の需要低迷等の影響により、売上原価の減少は $\Delta 37\%$ に止まりました。
3. 以上より、当上期の営業利益は $\Delta 6$ 億700万円となりました。経常利益につきましては、更に持分法損失が加わり $\Delta 8$ 億9,200万円となり、また純利益につきましては、連結子会社の富士化水工業におけるグループ再編関連の特別損失の計上があり、 $\Delta 9$ 億1,200万円となりました。

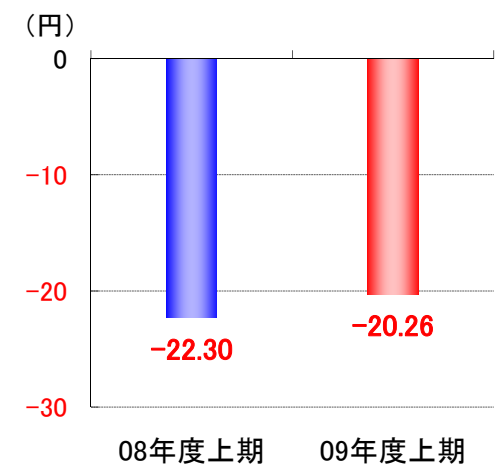
## 売上高、販管費等



## 利益



## 一株当り純利益



# セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	09年3月期 上期	10年3月期 上期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	6,902	5,630	82%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	13,715	5,826	42%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	4,100	3,905	95%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	24,717	15,362	62%	

1. 機能性顔料事業は、前年同期比△18%の減収となりました。その中でも、好材料としては、塗料関係で前年並みの需要の回復が見られました。
2. 電子素材事業は、前年同期比△58%の大幅減収となりました。電池材料のメタル販売価格の下落により3割、販売量ベースの減少により3割の売上高がそれぞれ減少しました。
3. エンジニアリング事業は、新規設備投資需要がストップする等の厳しい状況の中にありますが、メンテナンス部門の堅調により前年同期比△5%の減収に止まりました。

# 2010年3月期中間決算 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	09年3月期 上期	10年3月期 上期	増減
流動資産	29,572	19,341	△ 10,231
固定資産	30,437	33,040	2,603
流動負債	21,149	20,253	△ 896
固定負債	12,750	12,175	△ 575
少数株主持分	298	380	82
株主資本	25,961	20,149	△ 5,812
総資産	60,010	52,381	△ 7,629
現金/同等物	7,187	3,851	△ 3,336
キャッシュフロー	893	△ 3,116	△ 4,009
ROE (%)	△ 7.6	△ 9.1	△ 1.5

(注) ROEは株主資本合計に対して計算したものです。(年換算)

## 貸借対照表科目の特徴

1. 流動資産は、昨年9月末比△102億3,100万円減少しました。主な要因は、昨年下半年に発生した米国発の金融恐慌による売上債権の減少及び棚卸資産の圧縮です。流動負債の減少△8億9,600万円も、減収に連動した動きです。
2. 固定資産の増加26億300万円は、新規事業への設備投資です。
3. 固定負債の減少は、主として長期借入金の内、返済期限が1年以内になったものの流動負債への振替です。
4. 株主資本は、△58億1,200万円減少しました。前年度純損失△51億円（電池関係材料の在庫評価減△29億円、為替差損11億円）に加え、今年度上期も引き続き△9億1,200万円の純損失が発生したことが、大きな要因です。
5. 現金/同等物残高は、資金効率の向上に努め、30億円超の圧縮を実施しています。

# 主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	09年3月期 上期	10年3月期 上期	09年3月期 上期	10年3月期 上期	
富士化水工業株式会社	6,315	3,962	△ 53	102	12月末
戸田マテリアル株式会社	1,804	817	104	△ 92	3月末
戸田ピグメント株式会社	891	743	4	58	3月末
戸田工業ヨーロッパGmbH	1,021	355	△ 349	35	3月末
戸田アメリカInc.	601	167	15	△ 30	3月末
戸田塑磁材料（浙江）有限公司	416	276	19	22	12月末
戸田アドバンストマテリアルズInc.	921	185	△ 169	△ 307	12月末

## 【 減収増益 】

1. 富士化水工業(株)は、売上は伸び悩みましたが、徹底した経費削減策等により、黒字転換しています。
2. 戸田ピグメント(株)は、景気減速の影響も比較的小さく、経費削減等で経常利益は増益となりました。
3. 戸田工業ヨーロッパGmbHは、前年同期に会計基準の変更により一時的に赤字となりましたが、当上期はその影響が無く、黒字転換しています。
4. 戸田塑磁材料（浙江）有限公司は、経常利益が微増となりました。

## 【 減収減益 】

1. 戸田マテリアル(株)は、景気減速の影響を大きく受けて、前年同期比で大幅な減益となっています。
2. 戸田アメリカInc. は、前年同期の途中から販売ルートを北米経由から日本直販に見直したことで景気減速の影響で、前年同期比減益となっています。
3. 戸田アドバンストマテリアルズInc. は、世界的な景気減速の影響で、前年同期比赤字幅が拡大しています。

## 設備投資・研究開発・減価償却

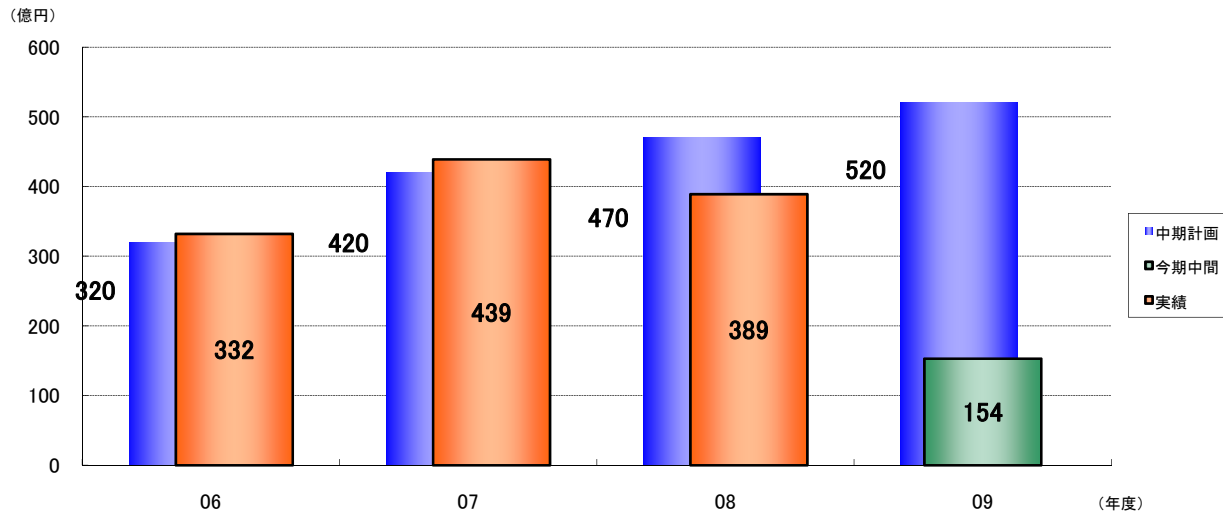
(単位：百万円)

	09年3月期 上期	10年3月期 上期	前年同期比
設備投資	2,155	1,269	59%
研究開発	1,043	733	70%
減価償却	1,066	1,092	102%

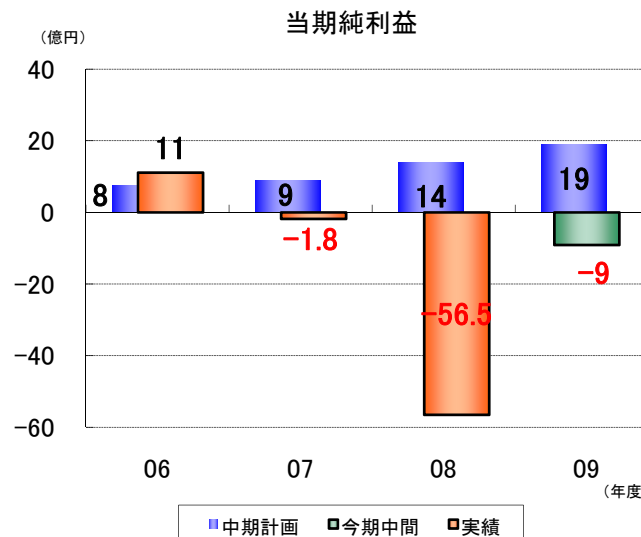
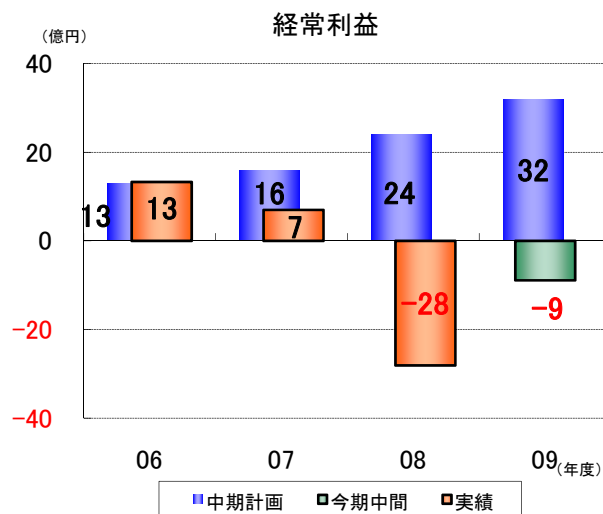
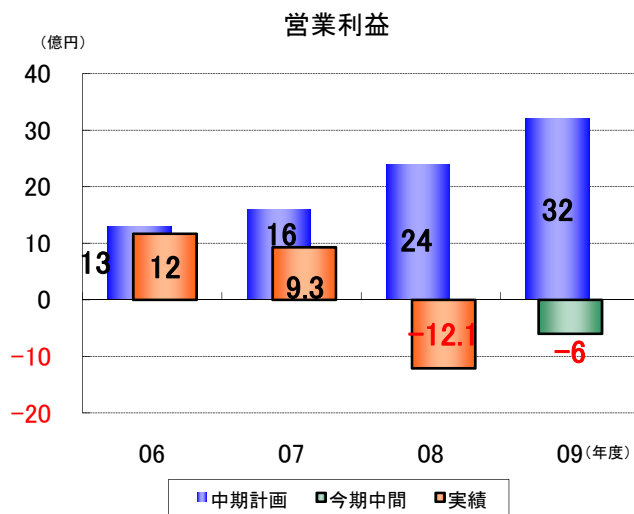
1. 設備投資の主な内容は、リチウムイオン電池材料・チタン酸バリウムの増産設備です。投資額を総額で41%抑制しました。
2. 研究開発費は、主としてリチウムイオン電池材料の開発に投入しています。今年度より、効率的な開発体制を採用し、前年同期比で30%抑制しました。
3. 減価償却費は、設備投資を控えたこともあり、横這いとなっています。

# 中期経営計画との比較 (連結)

## 売上高



## 利益



# 計画との差異の原因

## ■ 景気の低位停滞と、収益構造の改善の遅れ

### (1) 高付加価値市場の低迷

デジタル磁気記録テープ、カラーコピー等の高度技術分野の市場が景気の停滞とともに縮減しています。

### (2) 電池材料市場の流動化

ニッケル系リチウムイオン電池正極材料への転換の加速や電気自動車市場への期待感と実市場の動きの遅れなど、市場は流動的状态を迎えています。

### (3) 新規事業の開花の遅れ

チタン酸バリウムや塩ビ安定剤等の新規事業分野が、景気の低迷でその開花が遅れています。

## ■ コスト構造改善の遅れ

要員の適性配置等の措置を講じ、徹底した経費の削減に努めていますが、原材料の高止まり等を背景として利益構造を改善する迄に到っていません。

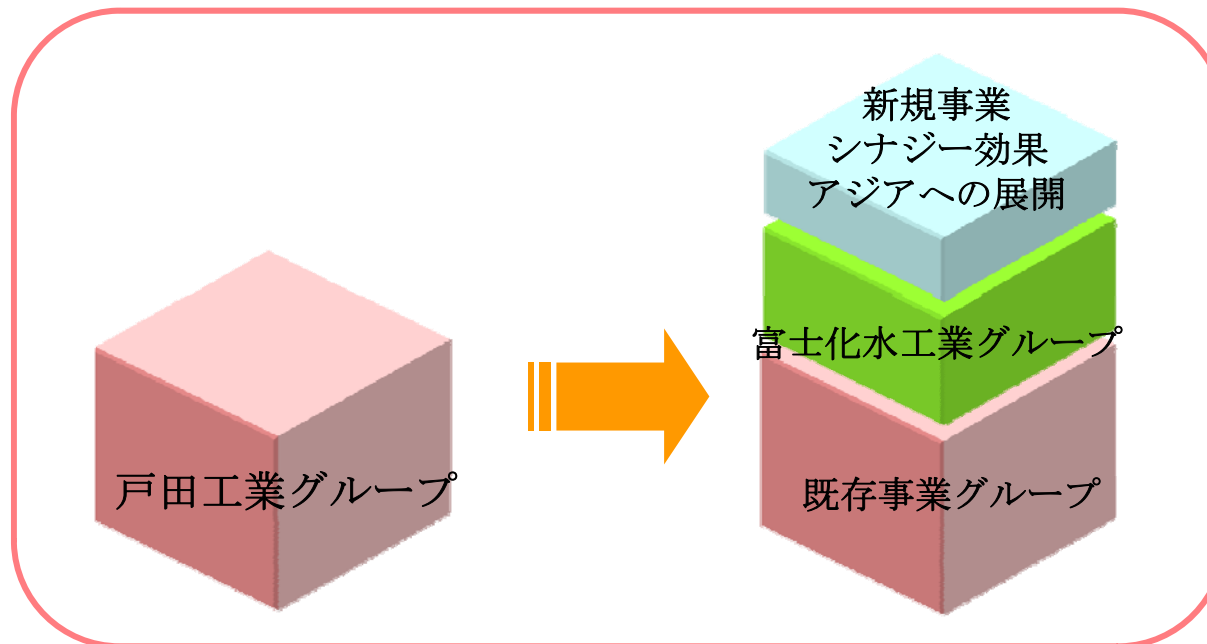
更なる改善努力を続けてゆきます。

# 2010年3月期（2009年度） 事業計画

---

## 中期経営計画における重要課題

1. 新規事業の確実な立上げ
2. 富士化水工業(株)のグループ経営化による確実なシナジー効果の創出
3. アジアへの展開



中期経営計画（06～09年）

# 2010年3月期 連結事業見通し

(単位:百万円)

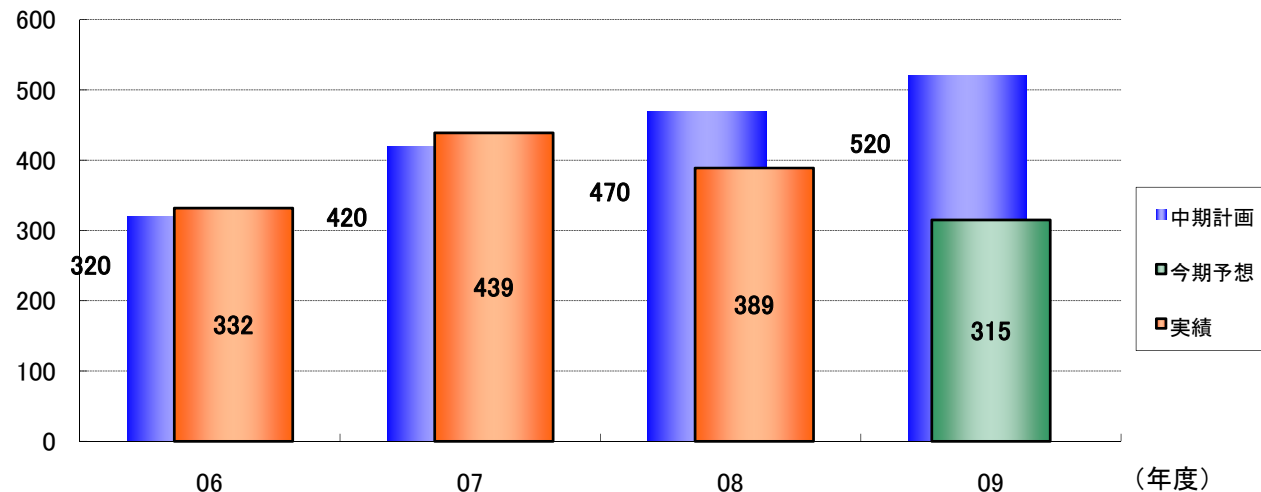
	09年度		09年度
	上期実績	通期予想	計画
売上高	15,362	31,500	52,000
営業利益	△ 607	△ 600	3,200
経常利益	△ 892	△ 900	3,200
当期純利益	△ 912	△ 1,100	1,900
営業利益率	△ 4.0%	△ 1.9%	6.2%
ROE	△ 9.1%	△ 5.5%	6.0%
一株当り純利益	△ 20.26円	△ 24.41円	40円

注: 10年3月期通期予想のROE算出には、10年3月期上期実績の株主資本20,149百万円を使用。

# 中期経営計画との比較 (連結)

## 売上高

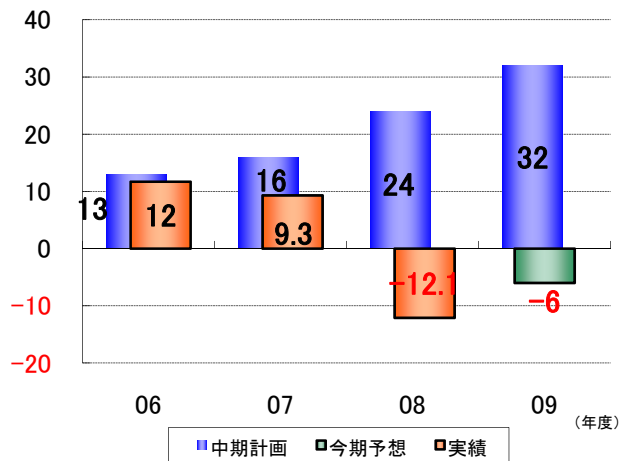
(億円)



## 利益

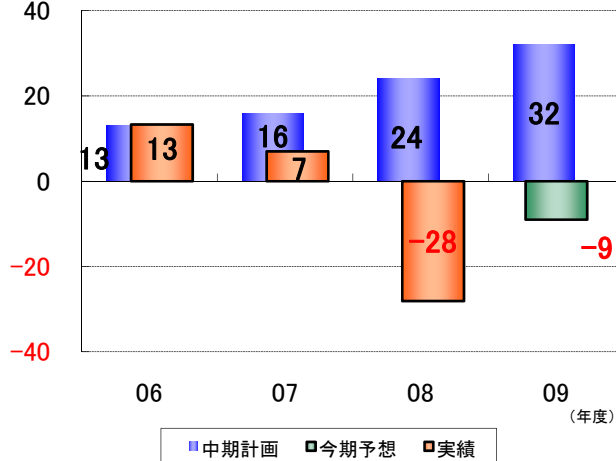
(億円)

### 営業利益



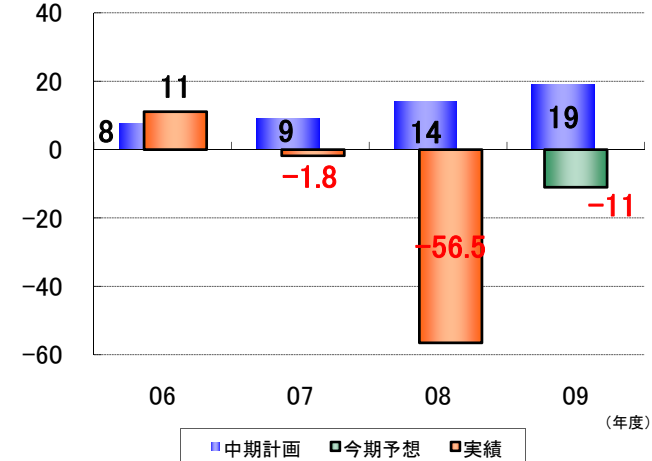
### 経常利益

(億円)



### 当期純利益

(億円)



# 今年度の重要課題

## 1. 電池材料事業を包含した次期の中期経営計画の策定

電池材料事業の将来の方向性を策定にあわせ、既存事業においても今後の事業展開の方向性を定め、会社全体の次期の中期経営計画を策定する。

### (1) 電池事業の基盤の強化と更なる発展

最大の販売規模に達した電池材料事業の、販売、生産、開発の基盤を強化し、今後電気自動車の登場により急拡大が期待されるリチウムイオン電池材料市場に向けて、更なる発展の礎を強固にする。

### (2) 既存事業の収益性の確保

グローバルな市場における存在の最適化、選択と集中、適切な新商品の投入、コスト構造の徹底的な改善等により、メリハリをつけた戦略、戦術を構築する。

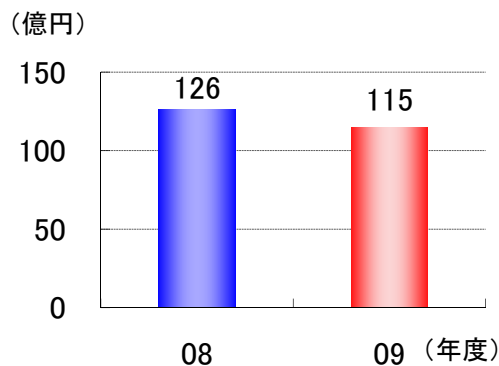
## 2. 財務体質の改善

事業の収益性の改善、営業キャッシュフローの改善を第一義とし、併せて財務、投資のキャッシュフローの適正化を図り、財務体質の改善に努める。

# 機能的顔料事業

## 主な製品と売上高

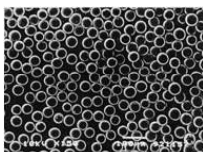
- 電子印刷材料
- 磁気記録材料
- 環境機能材料
- 顔料



## カラートナー用キャリアを拡販します。

当社のカラートナー用キャリアは画質性、耐久性で非常に高い性能を有し、販売が加速しているため、09年度での増産体制を確立します。

電子写真方式によるカラー印刷は、オフィスからPOD (Print On Demand) 等業務用として拡大していますので、この分野への拡販を目指します。



カラートナー用キャリア



POD機

## リップスティック用高級顔料が先端技術から誕生

新しい色調を生む色彩豊かな顔料が、リップスティックに乗り、世界中の女性を喜ばせています。

先端技術を駆使した顔料が新しいウェーブになることを期待しています。



## 新しい顔料の開発を進めています。

アスファルト用着色バインダー



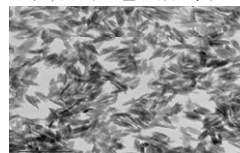
色彩性、施工性に富んだCSファルトによる舗装工事

道路レーン標示用無鉛顔料



環境に優しい無鉛顔料による黄色のセンターラインが、東京都等から採用開始

高性能透明顔料



有機顔料を超える対候性を有する透明酸化鉄顔料

高反射顔料

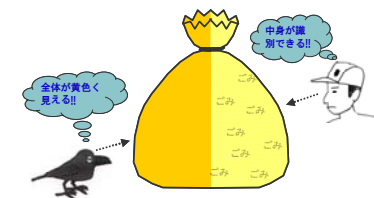


建物の屋根などに塗ることにより太陽光を反射して温度上昇を防ぐ高反射顔料

## 環境問題に密着したごみ袋用コンパウンド

ダイオキシン抑制ごみ袋用コンパウンドは、市町村を中心として安定した需要が継続しています。カラス対策ごみ袋用コンパウンドは、NHKや各種メディアでも紹介され需要が拡大しています。

波長を利用した黄色系ごみ袋の内容物の識別想定図  
カラス対策ごみ袋

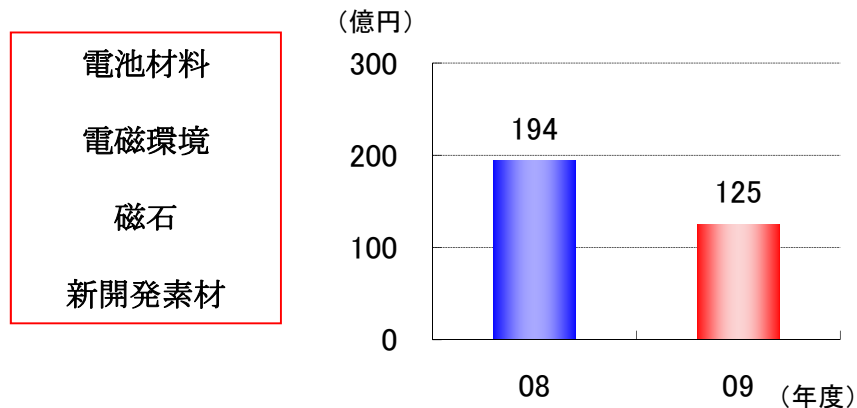


## デジタル磁気記録材料は次世代の開発に注力

データテープ用のデジタル磁気記録材料として、より微粒子化、高機能化された記録材料を開発しています。あわせて、次世代の新規磁性材料の研究開発も進めています。

# 電子素材事業 (1)

## ■ 主な製品と売上高



## ■ リチウムイオン電池材料を拡販します。

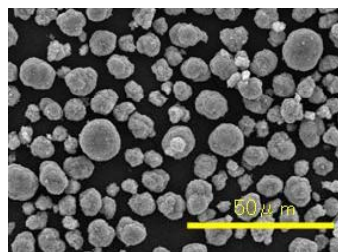
時代の流れと市場ニーズに適応したリチウムイオン電池用正極材料の開発と商品化に力を注いでいます。

すでに生産・販売しているコバルト系とニッケル系に加え、三元系、マンガン系、鉄系リチウムイオン電池用正極材料をラインアップに加え、市場展開中です。

全ての材料を開発出来るところが、当社の最大の強みです。

(商品群)

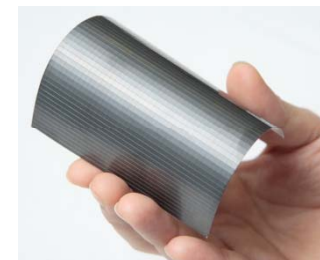
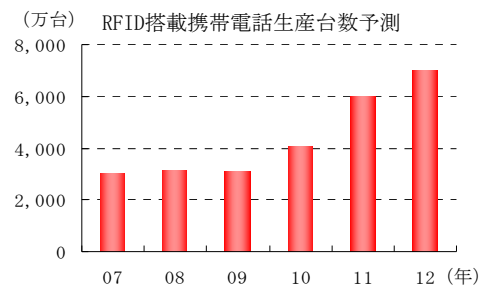
- コバルト系
- ニッケル系
- マンガン系
- NCM (三元系)
- 鉄系



NCM (三元系)

## ■ おサイフケータイのアンテナ用基板

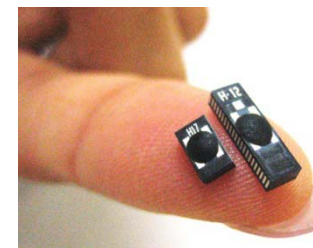
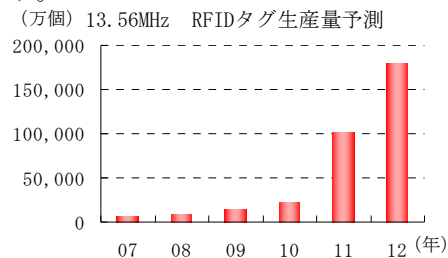
R F I D通信に使用されるアンテナの感度を向上し、通信距離が拡大するフェライトシート基板を量産しています。従来使用されていた金属磁性粉のシートに比べ優れた材料特性を持つことから、おサイフケータイ等に採用されており、今後は海外の携帯電話メーカーへの採用も期待されます。



アンテナ用シート

## ■ ICタグ

弊社のフェライト材料技術をベースに、超小型で交信距離や耐熱性に優れ、金属表面でも作動し、ハンダでも実装できるという、他社品には無い特長をもつ I Cタグを開発し、国内外への販売を開始しています。特に、他の電子部品と同時にプリント基板に実装し、製造管理や偽造管理に使用されたり、携帯電話の通信部品としても採用される可能性があることから、今後大きな需要が期待されます。



IC TAG

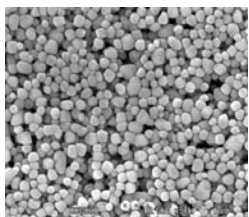
# 電子素材事業 (2)

## コンデンサ用誘電体材料の拡販

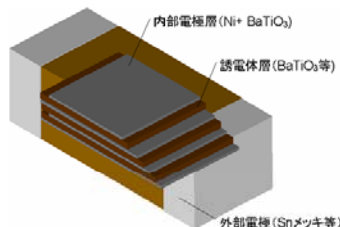
携帯電話等で数多く使われる小型高性能チップコンデンサを実現するために、ナノ誘電体材料（チタン酸バリウム）を製造しています。

当社の製品は、形状の揃った小粒子ですので、分散性が高く、薄層化・高積層化に最適で、結晶性も高いため、高誘電率を確保できます。

市場の伸びも期待される中で、当社製品の特徴が認められ、需要が拡大してきたため、プラントを増設することとしました。



チタン酸バリウム (100 nm)



## 燃料電池用改質触媒の開発

燃料電池は、地球温暖化防止の切り札の一つとして、期待されています。培ってきた基盤技術を活かし、燃料改質触媒の開発に力を入れています。近い将来の商品化が期待されています。



燃料改質触媒  
1.5~5mm φ

## ネオジ系射出コンパウンドの生産開始

中国・天津市にマグネクエンチ・インターナショナルINC (MQI社) との合弁で戸田麦格昆磁磁性材料 (天津) 有限公司を設立し、ネオジ系射出コンパウンドの生産を08年度から開始いたしました。MQI社のパウダー技術と当社のコンパウンド化技術により、コスト競争力と高品質を兼ね備えた希土類コンパウンドの安定供給が可能となり、自動車用部品・高効率モーターなどの分野への拡大を目指して行きます。



磁石用ペレットの例

## 環境に優しい無鉛の塩化ビニール安定剤の増産

電気ケーブルの被覆、上下水道用塩ビパイプ等の無鉛化が進んでおり、使用される安定剤としては、カルシウム亜鉛系安定剤への置き換えが加速しています。

当社の塩ビ安定剤NAOXシリーズは、そのニーズにベストマッチしており、急速に需要を伸ばしています。

## 光学フィルター用電磁遮蔽材料の開発

銀ナノ粒子を自己組織化させる機能を有した新規材料は、塗布・乾燥工程のみで、ナノ銀のランダムなメッシュ模様を形成します。

従来の規則的な格子状のメッシュを使った電子遮断材料に対して、製造の効率化を図ることが出来ます。また、メッシュの形状に規則性が無いため、モアレを生じないという利点を持っています。

ゲーム機などの普及と共に、銀ナノ粒子の販売を大きく成長させます。



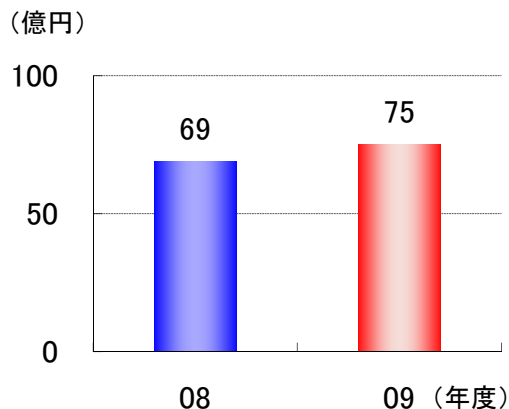
自己配列する銀ナノ粒子



膜を転写後に成形したフィルム

## ■ 主な製品と売上高

環境エンジニアリング



## ■ 廃ガス処理の拡販

モレタナ式スクラバー (脱硫、脱硝装置)

モレタナ式スクラバーは、空塔速度が速く、装置が小型で少スペースです。内部構造が簡単で、メンテナンスフリーです。また、ダスト除去も可能で、脱硫・脱硝装置として高い評価を得ています。



## ■ 廃水処理の拡販

### 1. トロル水処理装置

嫌気性高負荷処理装置で排水を処理します。活性汚泥法に比較して、動力費が1/5~1/10になります。また、好気性処理に比較して、汚泥発生量が1/3~1/10になります。



### 2. ヘルディバイオ水処理装置

フッ素、貴金属を高度に安定する能力を有しています。従来工法に較べて、汚泥発生量を半減、ランニングコストを半減することが可能です。



## ■ 土壌・地下水浄化ソリューション事業の展開

戸田工業の製造するRNIP (塩素含有有機物浄化触媒) とAMH (重金属不溶化剤) を技術の中心に据えて土壌浄化事業に取り組んでいます。富士化水工業では土壌汚染の調査から対策工事まで幅広くソリューションを展開することが出来ます。



VOC浄化のためのRNIP施工方法(例)

### 将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おき下さい。

### お問い合わせ先

戸田工業株式会社

常務取締役 経営企画本部長

高橋 精一

**TEL 03 - 3433 - 2411**

**FAX 03 - 5404 - 7244**

**E-mail: [Webmaster@todakogyo.co.jp](mailto:Webmaster@todakogyo.co.jp)**